

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

川 苔 山－奥多摩の展望台－



川苔山全景(初夏)

奥多摩・川苔山は、1353mの標高にもかかわらず、駅から歩いて日帰りの手軽な山として人気が高い。

2月下旬の週末、思い立って青梅線の電車に飛び乗った。古里駅から赤杭(アカナ)尾根を登り、大根ノ山ノ神経由で鳩ノ巣駅に下山する計画である。

電車は登山客でいっぱいだったが、古里で降りたのは私1人。部落の外れで出会ったお年寄りから、山に入るなら熊・猪よけに鳴り物をしっかり鳴らして行け、と脅された。

9時、部落最上部の墓地の脇から石段を登るとすぐ、杉林の中のほの暗い登山道が始まる。結構傾斜のきつい登りである。30分程で小尾根の鞍部を乗り越すと、尾根中腹をからむトラバース気味の登りになるが、このルートはあまり使われていないのか各所で崩落が激しく、恐ろしい程の急斜面のトラバースに緊張の連続である。10時半、やっと赤杭尾根主稜線のズマド山のコルに到着し一息入れた。

後は、若干の高低差があるがたんたんとした雑木林の尾根道散歩となる。雪は日陰



アセビの群生

の凹地を除いては殆ど無い。途中何度か満開のアセビの群生に遭遇し、心

が和む。峯戸山、赤杭山をいずれも巻き道し、エビ小屋山東面の急登に一汗かいて12時、立派な道標のある稜線に飛び出した。ベンチがある。ここで今日初めての登山者と出会い、テルモスの熱い紅茶を勧めながらしばらく歓談した。

後は、露岩混じりのつらい登りが続き13時、川苔山頂上に到着した。素晴らしい展望である。正面に雲取山、西谷山、三ツドッケ、蕎麦粒山、左に三頭山の背後に富士山、更に左手には御前山、大岳山のかなた遠く、丹沢の山々が重なり重なって見える。

しかし風が強い。早々に頂上を退散し、5分程下の東ノ肩の茶店の廃屋で

ゆっくり休憩した。同年配のグループが酒盛りをやっており、つい仲間に加わって、いささかお相伴にあずかった。

下りは舟井戸の水場経由で沢の中を急下降する。当初は欲張って本仁田山経由の経路も目論んでいたが、時間も遅いのでやむなく断念した。無念無想で沢の中をどんどん下り、途中、大根ノ山ノ神の小祠に一礼したりして、大分薄暗くなった16時半、やっと鳩ノ巣駅にたどり着いた。



雑木林の尾根道



川苔山頂



山頂からの富士山・三頭山